

文化・芸術の祭典 文化連盟油木ブロック総合文化祭/芸能部門・美術部門開催

ゆきの灯り

第83号

令和5年12月発行
油木協働支援センター
TEL 82-0701
FAX 82-2228

生涯学習マスコット：マナビィ



春待月



11月5日(日)「芸能部門」、24日(金)26日(日)「美術部門」と、文化連盟油木ブロックが主催する「文化・芸術イベント」が開催されました。(美術部門は油木協働支援センター共催)
芸術・文化とともに、日頃からの積み重ねの成果が発揮された「文化祭」となりました。



油木ブロック大賞
油木高等学校2年 「猫」
田邊麻那さん

日常の中で文化芸術の鑑賞や体験の機会を得て、「心豊かにくらしにいける環境づくり」が神石高原町にも必要ではないでしょうか・・・

油木高校生は、美術授業の一環として会場を訪れました。引率の先生は「近くの施設で作品を鑑賞し、学習できたので良かった。」とのこと。このように、学校が地域と連携し地域教材に触れて学習を深めていくことが、「学社連携」の第1歩となります。

—文化芸術振興の意義(文部科学省抜粋)— 文化芸術は、芸術家や一部の愛好者だけのものではなく、すべての国民が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していく上で不可欠であり、国民全体の社会的財産です。したがって、個人・企業・団体・地方公共団体・国などが、相互に連携協力して、社会全体でその振興を図っていく必要があります。



11月17日(金)、「第6回軽トラ掘り出し朝市」を開催しました。
今回は今シーズン最後の「朝市」でしたが、残念ながら小雨も降り気温が低い中での開催となりました。
それでも、旬の商品を求めて買物に訪れてくださる方もいて、改めて「買物ができる場」「集える場」を地域の皆さんが欲しいことも伺えました。
シーズンを通じて開催に協力いただいた、皆さんに感謝申し上げます。

第6回軽トラ掘り出し朝市開催!

神石高原 化石発掘体験

11月8日(水)、神石高原中学校の油木地域在住生徒が「地域ふれあい行事」の活動で「化石発掘体験」を行いました。
油木地域在住の生徒は「にしかわ化石館」での「化石クリーニング」は体験済みですが、実際に現場の露頭からの「発掘」はほとんどの生徒が初めての体験で、3グループに分かれて限られた短い時間で化石が真剣に発掘活動を行いました。
中には大きなヒカリアの化石を掘り出す生徒もあり、今回の活動は化石を通じて「地域に関心を持つ」ことへの一助になったのではないのでしょうか。
発掘した化石はケースに入れて大切に持ち帰りました。



—お知らせ—
年末年始のお休みについて
■油木協働支援センター
12/29(金)~1/3(水)
■分室「にしかわ」
■にしかわ化石館
12/29(金)~1/4(木)
上記のようにお休みします。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

11月20日(月)、豊松小学校6年生が「にしかわ化石館」を訪問し、化石・鉱石等の本物教材に触れる学習を行いました。
当日は、化石館に展示してある化石・鉱石等の見学をした後、化石クリーニング体験を行い、多くの化石を掘り出すことができました。
地域から出た本物教材に触れることで、学校での学習がまた一層深まると良いですね。

豊松小6年生本物体験学習



11月のゆきキッズ

11月の「ゆきキッズ」は4回開催され、参加した子どもたちは楽しい時間を過ごしました。

■自然を楽しむ会②

(11月4日)

赤木恵先生の指導で「自然を楽しむ会」を開催しました。天原から神社方面を歩き、秋の自然に触れました。



■もの作り教室③

(11月11日)

松岡純夫先生の指導で「本立て作り」に挑戦しました。のこぎりで板を切り、釘どめをして形を整えてニスを塗って完成させました。



■楽描教室③

(11月18日)

若林佐都子先生の指導で来年の干支「龍」の絵を描きました。絵の周りも、展示用に工夫してデザインし、完成させました。



■しめ縄作り教室

(11月25日)

坂本行正先生の指導で「しめ縄作り」に挑戦しました。正月には、それぞれの家の玄関先に飾れば良いですね。



アートクラブ③ パン教室②

大人の教室

11月20日(月)、若林佐都子先生の指導で「アートクラブ③」を開催しました。

今回は年賀状作成に向けて、「干支の龍」をモチーフにした「はんこ」作りに挑戦しました。

彫刻刀の使い方(安全・使い分け等)を学びながら、丁寧に作業が進みました。

11月21日(火)、平田サエ子先生の指導で「オニオンベークン」「キャロットケーキ」作りを学びました。

説明をメモしながら、互いに協力して段取り良く調理をすることができたようです。美味しいケーキが出来上がりました。参加者のレパートリーも、どんどん増えていきます。



「子ども食堂」支援ボランティア募集
油木協働支援センターでは、「子ども食堂」事業開始に伴い、協力していただけるボランティアを募集しています。



油木協働支援センター(☎820701)

有害動物駆逐煙火安全講習会開催

10月26日(木)、株式会社ライズより講師を招き、4年ぶりに「有害動物駆逐煙火安全講習会」を開催しました。
ここ数年、有害動物増加にも関わらず、新型コロナウイルスの影響で講習会を開催しても資料配布で終わっていただけに、今回は約50名の参加があり、講義を中心に煙火使用法の研修を深めました。
全国的にイノシシやクマの出没で、ケガをする人のニュースがほぼ毎日TV・新聞等で流れます。獣害対策の際には、十分に気を付けて行動して下さい。

動物駆逐煙火使用には「保安講習」を受ける必要があります。



—油木小学校「人権の花」展—

人権擁護委員会が、毎年ヒヤシンスの水耕栽培を通して、子どもたちの人権意識を高揚させる取り組みを行っています。そして油木小学校の子どもたちが、育てたヒヤシンスを写生し、一言メッセージを添えた作品が11月15日(水)から12月5日(火)まで、油木コミュニティセンターのロビーに展示されました。

センターを訪れた方々も、子どもたちの感性豊かな作品を見て感心されている様子でした。



文化イベント部主催

佐々木りょうさん来演!!

速報

「春のコンサート」開催決定!!



詳細は後日!

期日:令和6年3月16日(土)

—命を大切にできる心— (参考:香川県教育委員会「今こそ家庭教育」)

みんな違ってみんないい

〇「みんな違う」というのはわかります。では、「みんないい」と思えるためには何が必要でしょうか?その一つに、「モノサシを複数もつこと」があると思います。例えば、何人かの子どもがかけっこをしたとします。やはり「一番いい」と感じるのは「一番速かった子ども」だと思います。ただ、一番速くなかった子どもでも、足がしっかり上がっていた、手がよく振れていた、走るときの姿勢がよかった...など、いくらでも認められる部分はあります。

〇世の中にはたくさんの「モノサシ」があるにもかかわらず、つつい社会的に価値の高い「モノサシ」ばかりで子どもを見まいがちです。せめて親ぐらいいは認めるためのモノサシを複数もち合わせておき、「それでいい」と認めてあげる存在でありたいと思います。

差別と区別

人を不平等に扱い、片方が利益を得るため分けるのが「差別」。

平等性が保たれたまま分けるのが「区別」。

※子どもたちは親が区別しているのか、差別しているのか、敏感に感じ取る。



★地域で子どもを見守り育てよう(油木協働支援センター)



子育てチェック

- ついつい自分の子どもと他の子どもを比較してしまう。
- 人はみな「オンリーワン」だと思う。



ワンポイントアドバイス

- POINT 1 自分が重視している「モノサシ」を考えてみましょう
- POINT 2 自分がコミュニケーションしにくい人を思い浮かべてその理由を考えて
- POINT 3 家族全員の「幸せ」は何ですか